



実践報告④ 海食べのすゝめ

株式会社ふくや 尾上 恵莉子

1 概要とねらい

福岡で辛子明太子の製造販売を行っている株式会社ふくや。そのふくやが展開する新ブランドである「海食べのすゝめ」では、「fish style for smile」というコンセプトのもと、全国の美味しい海産物を地域の人たちに提供しています。魚食を推進している私たちにとって、子どもたちの魚離れは大きな問題です。ちりめんじゃこやそれらに混じるチリモンは、魚離れが進む子どもたちに抵抗なく、むしろ積極的に魚に関心を持ってもらえる、食育や魚食を推進するうえでも素晴ら

しい教材だと思っています。また、食育に関するイベントは、事前に保健所への申請が必要で、通常は実施のハードルが高いのですが、飲食・惣菜製造販売免許を所持している飲食店内でのイベントとすることで新たな申請が不要になり、安全に実施することができます。また、飲食店という業態を活かし、イベント中にちりめんじゃこを実際に食べてもらうことで、チリモンだけでなく魚を食べることに興味を持ってもらえるようにしています。

事前の準備

- しらす漁の紙芝居の準備
- 備品準備
(台紙、ピンセット、木工用接着剤、エタノール、小瓶等)
- 小学校でチラシ配布、イベント告知
(近隣の小学校に、学校の許可を得て放課後にチラシを配布しました)
- ちりめんじゃこの用意
(淡路島産のものを1人150g程度)



図 3-27 ちりめんじゃこを出すと、「おお！」という歓声があがった

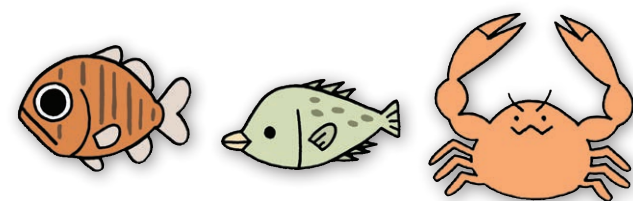


図 3-26：紙芝居「美味しいちりめんじゃこができるまで」

2 イベントのようす

① 紙芝居

まずは、魚に少しでも興味を持ってもらうために、ちりめんじゃこについて質問をしました。多くの子どもたちは、ちりめんじゃこを食べたことはあるが、漁の仕方や加工方法については知らないという意見がほとんどでした。そこで、まずはちりめんじゃこがどんな生き物でどうやって私たちの食卓に届くかについて知ってもらうために、「美味しいちりめんじゃこができるまで」と題した紙芝居を行いました。紙芝居では、ちりめんじゃこの漁獲法やその後の加工の過程について説明を行い、参加した子どもたちだけでなく、保護者の方の反応も上々でした（図 3-26）。



② ちりめんじゃこの実食

紙芝居が終わった後は、実際にちりめんじゃこを食べてもらいました（図 3-27）。参加者は食べながら熱心に観察していました。この間、次に実施するチリモンハント（チリメンモンスターさがし）の注意事項の説明もあわせて行いました。

③ チリモンハント

続いて、チリモンハント（チリメンモンスターさがし）の開始です（図 3-28、3-29）。子どもたちからの質問には、すぐに答えるのではなく、パンフレットをみながら一緒に答えをさがすように配慮をしました。30 分ほどさがしたのち、チリモンアルバムと標本づくりを行い、お気に入りのチリモンを持ち帰ってもらえるようにしました（図 3-30、3-31）。

④ まとめ

最後にまとめとして、海をきれいにすることの大切さを説明し、「今夜は魚を食べましょう！」と伝え、イベントを終了しました。



図 3-30 チリモンアルバム



図 3-31 チリモン標本



図 3-28



図 3-29

3 イベントの成果と評価

チリモンハントが終わった後の説明時に、海の中には今回さがしたチリモンがたくさんいること、そのチリモンたちにとって、海に捨てられるゴミは、人間ならビルが落ちてくるくらい大変なことだと伝え、絶対にゴミを捨てない、ゴミは拾う、と約束してくれる子もいました。今回のイベントは、食育がテーマでしたが、海をきれいに保つことが、そこにすむ生き物の命を守り、ひいてはそれが私たちの食の安全にも繋がるのだということを、子どもたちや保護者の方に理解していただけたのではないかと思います。

また、チリモン実習は実施する側、参加する側どちらも楽しむことができ、よい地域コミュニケーションの場ともなっていました。企業が実施するイベントでは、店員とお客様という関係になりがちで、深いコミュニケーションがとりにくいのですが、チリモン実習では、参加者と話す時間が長くなり、また参加者側からも積極的に話しかけてきてくれました。そのため普段とは違ったコミュニケーションをとることができ、地域の方とより親密になることが可能でした。さらに見つけたチリモンは持ち帰ってもらったので、参加者の満足度は高く、また参加したいという声を多く聞くことができました。